

## 平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「夢・発見・実現」を合言葉とし、地域に根ざし、生徒一人ひとりの多様な学びと多様な進路を実現する総合学科高校をめざす。

総合学科高校の特色を活かし、各系列の選択科目での学習を通じて各生徒の興味、関心に応じた幅広い知識、能力、技術を習得させるとともに、全教職員が学校の教育方針に基づいて、キャリア教育、生徒指導、人権教育を密接に連携させてきめ細かい指導、支援を行い、一人ひとりの進路実現をめざす。

- 1 自立した社会人として主体性を持ち、自らの力で学び、考えたことを、自らの言葉で表現できる力を育成する。
- 2 将来に夢と希望を持ちながら自己の具体的なキャリアビジョンを設定し、実現に向け粘り強く努力する力を育成する。
- 3 多様な社会の流れや課題の本質を理解し、高い自尊感情を持ちながら変化の時代を生き抜く力を育成する。
- 4 地域との繋がり人との繋がりを大切にし、互いに助け合い高めあう関係を築くことのできる力を育成する。
- 5 北摂地域初の「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学選抜」実施校として、外国にルーツを持つ生徒の支援と日本人生徒との共生を図る。

## 2 中期的目標

## 1 総合学科の特色を活かした確かな学力の定着

- (1) 生徒の実態等に基づき、基礎学力を定着させるとともに、興味関心・進路希望に応じた教育内容を創造する。
  - ア 系列等の選択科目について、普通科選択制高校として培った蓄積を活かし、生徒にとって魅力のある科目の内容を創造する。
  - イ 必修科目について、学び直しと習熟度別授業の実施等により、文章読解の力をはじめ基礎学力の定着と学習意欲の向上を図る。
- (2) 主体的・対話的で深い学びを実現した授業づくりを進め、生徒の学習意欲を向上させる。
  - ア 社会や世界との関わりを考えた生徒にとって一層魅力のある授業づくりを進めることをはじめ、教員が不断の授業改善に努める。
  - イ 地域や保幼小中大との連携を一層進め、施設実習や国際交流及び職業体験など多様な体験活動の機会を増やす。
    - \* 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度について、27年度の58%から平成30年度には70%にする。

## 2 将来に向けた力をつけるキャリア教育の推進

- (1) 「ドリカム」をコアカリキュラムと位置づけ、すべての授業との関連を持たせつつ、自分で考え自分の言葉で表現できる生徒を育成する。
  - ア 3年間を見据えたグループ学習等を通じて主体的に学ぶ意欲を養い、多様な出会いや体験を通じて自分の将来像を描く中で、自尊感情や社会的有用感に富んだ人間性を育成する。
  - イ 自分が選んだテーマを研究・「論文」にまとめ、プレゼンテーションすることを通じて、視野を広げ伝える力を育みながら、自らの個性・生き方を磨き、自らの進路を切り開く力を育成する。
    - \* 第1志望の大学・専門学校・事業所への進学率・就職率について、27年度の63%から平成30年度には80%にする。

## 3 安全で安心な学びの場づくりの推進

- (1) 生徒一人ひとりをサポートする人権教育と生徒指導等の一層の充実を図る。
  - ア 人権教育と生徒指導の連携を一層充実させることにより、すべての生徒が安心して生活できる学校づくりを進める。また、自分を大切にすることや挨拶をはじめ基本的生活習慣の確立を基盤として、自立心・規範意識を育成する。
  - イ 生徒指導上の課題のある生徒について、すべての教職員が適切かつ毅然と指導できるよう、チームワークを活かして対応する。また、不登校の兆候の見られる生徒や個別の支援が必要な生徒については、カウンセリングマインドをもって対応するとともに、中学校、保護者や外部の専門機関等と連携しながら状況の改善に努める。
  - ウ 学校行事や交流活動などの生徒が生き生きと活動できる場を3年間見通した活動の中で提供する。また、部活動については本年度の重点項目とし、生徒の自尊感情や集団の中での有用感を高め、興味関心のあることに生涯を通じて継続的に取り組む力を育成する。
  - エ 日本語指導の必要な生徒について、母語指導の充実や進路への取組みを進めるとともに、学校全体で多文化共生の取組みを発展させる。
    - \* 平成29年度から3年間で遅刻件数、懲戒件数、不登校生徒数の10%減少をめざす。
- (2) 学校を支える教職員が互いに学び合う職場づくりを推進する。
  - ア ミドルリーダーの育成を図るとともに、教職員一人ひとりの強みが発揮できる職場づくりをめざす。

## 4 地域連携、保幼小中高連携の推進

- (1) 絆づくりと活力あるコミュニティの形成により地域とのつながりを充実させる。
  - ア これまで培ってきた幼保小中との連携、地域連携のネットワークを基盤に、地元へ根づいた「開かれた学校」づくりを一層推進する。
  - イ 学校協議会及び学校教育自己診断を活用するなど、保護者や地域のニーズを反映した学校改善に取り組むとともに、「豊川教育コミュニティネット」の一員として、他校の教職員とのネットワークを強化し、総合学科高校として情報を積極的に発信する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成29年1月実施分]	学校協議会からの意見
<p>昨年度のアンケートでは、多くの項目での肯定的意見が減少し、否定的意見が多くなったことが課題であったが、今年度の結果は、ほぼ例年通りとなった。</p> <p>本校教育活動の中心である「人権教育」の項目について肯定的意見が多いが、「いじめなど困っていることに真剣に対応してくれている」については、約10%低下している。更に生徒に寄り添った細かい対応が必要である。</p> <p>学習・授業については、「わかりやすく楽しい」の肯定的回答が50%と昨年度比5%増えたが、決して高い数値ではない。また、「わからないところを質問しやすい」は9%減少しており、授業全般について更なる改善が求められている。</p> <p>キャリア教育・進路指導についても、肯定的回答が多く「将来の生き方」「進路についての情報提供」等については80%前後の高い数値である。総合学科移行後3年目でキャリア教育が系統的に展開できた結果だと考えている。</p> <p>学校行事については「体育祭」「文化祭」が「楽しい」との肯定的回答は昨年より更に下がり、60%程度にとどまった。修学旅行の75%と比べても非常に低い。こ</p>	<p><b>第一回(7月4日 開催)</b></p> <p>定員割れの原因と対策について、「総合学科の良さが十分に説明できていない」ということと、「地元中学校とは今後もしっかりと連携を進めていくべきである」等のご意見をいただいた。それに対し、オープンスクールの時期変更や、中学校訪問のエリアを広げる等の対応策を説明した。</p> <p><b>第二回(11月22日 開催)</b></p> <p>学校の特色ある授業について見学を行った。ご意見として「板書のまとまりがない。1時間分の授業が最終的に黒板1枚にまとまっていない。」「ICTの活用については、小中学校では板書はほとんどなく、タブレット端末を使っている学校もある。」「ドリカムライブ」の授業では、生徒自身が試されている授業のように感じた。新聞をとっている家庭が少なくなり、時事問題は難しいのではないかと。」といったことが挙げられた。</p> <p><b>第三回(3月8日 開催)</b></p> <p>志願者が定員を超えたことは喜ばしいこと。福井高校を育てる会の中学校もかなり協力をしてくれた。次年度も引き続き広報活動を充実させ、福井の良さをアピールすべき。授業については前回</p>

## 府立福井高等学校

の点を改善することで、「学校は楽しい」肯定的回答が高くなると考える。	も言ったが、かなり改善の必要がある。他校や茨木市の中学校に見学に行かれたらいいと思う。
------------------------------------	---

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
確かな学力への取り組み	(1)興味関心・進路希望に応じた教育内容の創造 ア、選択科目の内容の充実 イ、習熟度別授業・文章読解・学び直しの内容の充実 (2)対話と考える時間のある授業の実施 ア、授業改善の実施 イ、多様な体験活動の実施	(1) ア、生徒の興味関心・進路に応じた多様な選択科目を実施する。 イ、英数は習熟度別授業を実施するとともに、国をはじめ全教科で読解力の育成と学び直しの要素を取り入れた授業を行う。 (2) ア、教員相互の授業見学や研究授業を実施するとともに、目標設定で「主体的・対話的」な授業の工夫を記載して実践を検証する。 イ、施設実習や国際交流、土曜講座など多様な学習機会を提供することにより、人と出会い豊かな学びを創造する。	(1) ア、生徒の学習意欲と授業満足度の向上をめざす。 イ、授業アンケートの数値向上をめざす。 (2) ア、授業アンケートの数値5ポイント上昇、授業満足度の向上をめざす。 自己申告票への「双方向性」や「考える授業」など工夫について目標設定して、実践を各自で検証する。 イ、施設実習等を20回以上実施する。 豪州へのスタディツアーを実施する。 予備校講師による土曜講座を実施する。以上のことから、生徒の学習意欲の向上をめざす。	(1) ア、自己診断アンケート「授業が分かりやすく楽しい」に対し、肯定的意見が昨年度より5%上昇したが、「先生に質問しやすい」は9%下がった。(○) イ、英数については小人数展開授業を実施し、成果は上がっている。(○) (2) ア、相互見学週間を設定したが、校務に追われ他の教員の授業を見学する機会があまり取れなかった。(△) イ、福祉の授業を中心に施設実習については20回実施した。国際交流は今年度韓国の高校からキャンセルがあり、実施できなかった。次年度はオーストラリア・韓国同時実施の予定である。(△) 土曜講座については人数が少ないながらも、意欲のある生徒が最後まで頑張れた。(○)
キャリア教育の推進	(1)ドリカムの再構築 ア、グループ学習の実施 イ、課題研究の実施	(1) ア、1・2年次生において、プロジェクト学習や多様な社会人と出会う取組を実施する。 イ、課題研究に取り組むとともに、自らの進路決定する力を高める。	(1) ア、学校自己診断(キャリア教育関係)の向上をめざす。 イ、課題研究を実施するとともに、進路未決定率10%以下をめざす。	(1) ア、キャリア教育について、「将来の生き方を考える」「命の大切さや社会のルール」に対し、肯定的回答が80%前後と昨年同様高く、生徒は意欲的に取り組んでいることが伺える。(○) イ、課題研究等の発表大会を開催し、3年生を中心に質の高い発表と生徒の自主的な運営ができた。課題研究の力により、進路決定率も第一志望が82%と健闘した。(◎)
安全で安心な学びの場づくり	(1)基本的生活習慣の確立 ア、授業規律の確立 イ、服装・遅刻指導の徹底 (2)自他を大切にす る人権感覚の育成と相談体制の充実 ア、「気づき」「交流」「発信」を重視した人権学習 イ、外部機関との連携した職員研修の充実 ウ、行事等の活性化 エ、日本語指導の必要な生徒に寄り添った指導 (3)ミドルリーダーの育成	(1) ア、授業規律の指導目標と基準を作成し、全教科担当が線をそろえた指導を行う。 イ、制服の着こなし指導を行うとともに、遅刻指導では朝の挨拶運動・メロディチャイムの活用・放課後指導を実施する。 (2) ア、人権HRをはじめ様々な場面で左記の視点での取組を進める。 イ、人権保健部主催の職員研修や専門機関等の指導を受けたケース会議を行う。また、必要に応じて個別の教育支援計画を作成してチームで指導する。 ウ、特別活動をはじめとする3年間を見通した取組を進める。部活動においては学校全体で支援体制を充実させ、加入率をあげ、かつ継続させる。 エ、日本語指導・母語指導・進路指導の充実と多文化共生の取組を学校全体で進める。 (3) Yプロ(経験年数の少ない教員研修)を核に教員の学びを深める学び合いの取組を実施する。	(1) ア、私語の目立つ授業の有無について、担任会などで点検・把握する。 イ、全教員で制服指導を行い、遅刻者の5ポイント減をめざす。 (2) ア、学校教育自己診断の人権関係の数値をアップさせ、80ポイント以上をめざす。 イ、研修・ケース会議を年間5回以上実施する。 困り感を抱えた生徒の「個別の教育支援計画」を100%作成し、チームで指導を実施する。 ウ、学校満足度の向上をめざす。部活動の加入率55%を達成する。(昨年度51.2%) エ、生徒の学校への定着や全員の進路決定をめざすと同時に、日本ルーツの生徒との交流を前進する。 (3) 学校満足度の向上をめざす。	(1) ア、授業規律や着こなしについてはプリントも作成し、全教職員で共有し成果があった。(○) イ、遅刻数については前年度とほぼ同じで、効果的な指導方法が見つからなかった。次年度も引き続き課題である。(△) (2) ア、アンケートの人権に関する項目は全て肯定的意見が70%前後で昨年同様高い数値であった。(○) イ、職員人権研修は4回実施、事例検討会も2回実施し教職員で共有し、スキルを高めることができた。(◎) ウ、部活動加入率は10月調査段階で48%と目標は達成できなかったが、休部中の部が2つ復活するなどし、活動の場を確保した。(○) エ、「コスモス」生徒が中心となり、一般生徒との交流をめざし、昼休みにEnglish Caféを開店したり、クリスマス会を実施したりと、順調に交流を進めた。(◎) (3)茨木地区の若手交流会に2回、第2地区の私立高校も含めた勉強会に2回出席した。特に「丁寧な保護者対応」について、経験の豊富な教員も参加し、意識を高めた。(◎)

## 府立福井高等学校

<p>地域連携、 保幼小中高連携の推進</p>	<p>(1) 絆づくりと活力あるコミュニティの形成 ア、地域に根ざした学校づくりの推進 イ、地域、中学校に向けた情報発信</p>	<p>(1) ア、生徒会、部活動などが地域のイベントに積極的に参加し、交流を深めることや、地元小中学校での出前授業を行う。 また、茨木市人権研究会、豊川教育ネット主催の公開授業や研修に参加したり、「福井高校を育てる会」と連携を強める。 イ、学校の取組みをHP・説明会など地域・中学校に発信するとともに、「福井高カップ」をはじめ生徒主体の取組を進める。</p>	<p>(1) ア、地域のイベントに10回以上参加するとともに、出前授業を5校以上実施する。 研究発表を1回以上実施し、公開授業や研修に延べ50人以上の参加をめざす。 イ、HPの更新頻度を向上し、各種説明会・HP閲覧カウンター・「福井高カップ」参加者の5ポイント増をめざす。</p>	<p>(1) ア、部活動を中心に活発に行った。 ダンス部・軽音楽部が福井地区・豊川地区夏祭りに参加、大型商業施設子育てイベントにこの2部に加え吹奏楽部も参加、福井小への英語の出前授業、コリア学園からの見学受入れ、茨木支援学校夏祭りにダンス部が出演等、多くの交流を行った。(◎) イ、ブログの更新回数は昨年度が129回のところ今年度は255回と大幅に向上した。また、ツイッターでも「福井高校応援団」のアカウントで情報発信をしている。(◎)</p>
-----------------------------	--	---	--	--